

1 新たな年を迎えました。

新年、あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

3年生のみなさんのなかには、すでに就職先や進学先が決定し、春から始まる新生活を楽しみにしている人がいます。また、これから進路の実現に向けて、試験に挑むという人もいます。



18日(土)・19日(日)に実施される大学入学共通テストまで、あと半月余り。志望校合格を目指して、毎日一生懸命勉強に励んでいることでしょう。試験は、自分の夢を叶えるための試練、関門のひとつです。体調管理に十分気を付けて、乗り越えてください。心から応援しています。

2年生はあと1年後、1年生は2年後、そうした立場になっていきます。先輩たちの姿をみて、自分のことをイメージしながら、有意義な高校生活にしていってください。

今年も最幸の一年になりますように。

2 願望を「潜在意識」に浸透させる

最近読んだ本に書かれていた内容の一部を紹介したいと思います。

思いは必ず実現する。

それは、人が「どうしてもこうありたい」と強く願えば、その思いが必ずその人の行動となって現れ、実現する方向におのずと向かうからです。

ただそれは、強い思いでなければなりません。

漠然と思うのではなく、「何がなんでもこうありたい」「必ずこうでなくてはならない」といった、強い思いに裏打ちされた願望、夢でなければなりません。

寝食を忘れるほどに強く思い続け、一日中、そのことばかりをひたすら繰り返し考え続けていくと、その思いは次第に「潜在意識」にまで浸透していきます。

「潜在意識」とは、自覚されないまま、その人の奥深く潜んでいるような意識のことです。普段は表に出てきませんが、思いもかけないとき、またいざというときに現れて、計り知れない力を発揮します。

一方、常日ごろから発揮しているような意識のことを、「顕在意識」といいます。人間の意識のなかでは、「潜在意識」の領域のほうがはるかに大きく、過去に繰り返し体験したことや、強烈な経験などが入ってきますから、それを活用することによって、瞬時に正しい決断を下すことが可能だと言われています。

この「潜在意識」が寝ているときにさえ働いて、私たちの行動を目標が実現する方向へと導いてくれるのです。

「潜在意識」が持つ素晴らしい力は、自動車の運転を例に例えると、イメージしやすいかもしれません。

運転を覚えたてのころは、手でハンドルを握り、足でアクセル、ブレーキを踏んでというように、動作の一つひとつを頭で考えながら、つまり「顕在意識」で運転をしています。

やがて慣れてくると、いちいち操作の手順など考えなくても、無意識に運転ができるようになります。ときには、仕事上の問題などについて、考え事をしながら運転していて、ヒヤッとすることさえありますが、それでも事故を起こすことなく運転できるのです。

運転技術が「潜在意識」に浸透したため、「顕在意識」を使わなくても、身体が勝手に動いてくれるようになったわけです。

仕事でも、この「潜在意識」を有効に使うべきなのです。

たとえば、「自分の仕事をこうしたい」と強く思っていると、突然素晴らしいアイデアがひらめくことがあります。

これも「潜在意識」です。

毎日、一生懸命に考えているうちに、その思いが潜在意識に透徹していきます。するととくに意識をしなくても、思いもかけない場面で「潜在意識」が働いて、素晴らしい着想が得られるのです。しかも、そのような「ひらめき」は核心を突いていて、今、自分が遭遇している問題を一気に解決してくれることもよくあることです。

それは、まさに「神の啓示」としか、たどえようがありません。

私にも、そんな経験がよくありました。

たとえば、京セラが新しい事業に取り組もうとする時のことです。新規事業と言っても、私たちにその分野の専門技術があったわけではありません。ただ、その新しい分野に京セラの技術を持ち込めば、素晴らしい事業展開が可能になる—そのような確信があるものの、現実に関心を持っている人材や技術とのギャップに悩んでいる。

そんなときに、思いもかけない出会いに遭遇するのです。

ある会合で、知人に人を紹介してもらおう。

すると、その人がかねてから関心を抱いていた、新しい分野の優れた専門技術者であるということがわかり、急ぎ入社してもらい、とんとん拍子で新しい事業が進んでいく。そのようなことがありました。

このようなことは単なる偶然のようにも思えますが、私は「潜在意識」、つまり私がいつも考え続けていたために、必然的にそうなったのではないかと思うのです。もし「潜在意識」に達するほどの強い願望を私が抱いていなければ、打ってつけの人材が目の前を通っても、気づかずに見逃してしまっていたに違いありません。

高い目標を達成していくには、「潜在意識にまで透徹する」ほどの、強い持続した願望を持つことが、まずは前提となるのです。

(稲盛和夫『図解 働き方』から)

3 本校を目指す中学生のみなさんへ

高校入試まであと2か月。受験勉強は辛く苦しいものですが、その先に、「一人ひとりの無限の『可能性の扉を開く鍵』」がきっと待っています。本校学校HPの校長ブログに、科学技術高校の学校生活の様子を日々アップしながら、みなさんにエールを送り続けます。

「『可能性の扉を開く鍵』がきっと見つかる」

☆科学技術高校☆

